

チャレンジ支援事業

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

“だれもが走れる社会”の実現を目指し、「ブレードランニングクリニック」を開催

第16回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞の記念事業として、2026年1月11日に「ブレードランニングクリニック&ユニバーサルかけっこチャレンジ in 静岡」を開催しました。

このイベントは、Blade for Allを掲げて「だれもが走れる社会」の実現にチャレンジする受賞者の遠藤謙氏の取り組みを全国に広げていくモデル事業として企画され、当日は近隣の障害者スポーツ団体や、義肢装具士を目指す学生らが視察に訪れました。



また第18回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞の選考委員会を開催（12月13日、1月24・25日）し、受賞者としてブラインドマラソン/ガイドランナー指導者の安田享平氏（NPO法人日本ブラインドマラソン協会常務理事/強化委員長）を選出しました。



●後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本バラスポーツ協会日本パラリンピック委員会



第18回スポーツチャレンジ賞には、ブラインドマラソン指導者の安田享平氏を選出

Yearly Digest

YMFS
ヤマハ発動機スポーツ振興財団

2025/4 - 2026/3

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2025年度の主な事業活動の実績

2025年度
トピック

学会ランチョンセミナーで理解・共感の輪を ～スポーツチャレンジ助成のOB・OGが研究成果を発表～



日本体育・スポーツ・健康学会でのランチョンセミナー。会場は150人の定員でいっぱいとなった

2025年度は、日本体育・スポーツ・健康学会（8月28日）と、日本体力医学会大会（9月17日）の2会場で当財団主催のランチョンセミナーを開催し、スポーツチャレンジ研究助成のOB・OGが成果発表を行いました。同セミナーは、参加者に対してYMFSスポーツチャレンジ助成の認知・理解を促進し、共感の輪をひろげるための取り組みの一つです。2026年度以降も、継続的な開催を計画しています。

チャレンジ支援事業

スポーツチャレンジ助成

体験助成15件・研究助成15件のチャレンジャーを支援

“スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成”を目的とする本事業は、2025年度（第19期）チャレンジャーとして30名を助成。成長プロセスを重視する独自のサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援しました。

半年を終えた10月には、第2四半期までのチャレンジを振り返る「中間報告会」を4回に分けて実施。審査委員からの激励や助言を受けて、下半期の活動につなげました。

また、年度末の3月14～15日には、第19期生・第20期生が一堂に会する「第19回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」（東京・日本青年館）を開催。成果報告会や修了式等の各種プログラムに加え、第16回スポーツチャレンジ賞受賞者の遠藤謙氏（義足エンジニア）による特別講演や交流会等を実施し、分野を超えたつながりを実感しながら、笑顔あふれる充実の2日間となりました。



第20期生31名を代表して、体験助成の清水菜乃さん（フェンシング）が力強く決意を表明



10月には第19期生の中間報告会を実施。上半期を振り返り、下半期に向けた活動計画を確認



日本青年館で2日間にわたって開かれた「YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」



各チャレンジャーは、相互刺激を与え合いながらそれぞれの目標に向けて大きな成長を遂げた

社会活性化への寄与を目的に各種情報を発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与するため、事業活動などに関する情報を広く発信しています。2025年度も当財団ホームページの運営をはじめ、チャレンジ支援事業とスポーツ体験促進事業のそれぞれの情報発信として、ニュースリリース発行（計12件）、YMFS通信配信（950か所）、年間事業報告書発行（900部）、調査研究書籍発刊（1,000部）等を行いました。

情報発信



ホームページ



YMFS通信



ニュースリリース

掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp



スポーツ体験促進事業

ジュニアヨットスクール葉山

通常練習に加え、4泊5日の浜名湖合宿を開催

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成のために、神奈川県葉山町を拠点として通年型のヨットスクール「ジュニアヨットスクール葉山」を運営しています。2025年度は、9名のスクール生を対象に毎月2～3回の指導を行いました。

これまで同様、葉山マリーナ周辺海域でのセーリング指導に加え、規律のある集団行動を体験する4泊5日の浜名湖合宿、救命措置などを身に付ける水辺の安全講習会、さらに津波を想定した避難訓練など、総合的な視点での指導プログラムを実施しました。



2025年度は9名のスクール生が活動。年間24回の通常講習に加え、各種大会等にも参加



葉山での通常練習でセーリング技術を向上



水辺の安全講習会でAEDの取り扱いを習得



合宿では、多様なウォータースポーツを体験

第34回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

早春の浜名湖でジュニア・ユースセーラーが競い合う

3月20～22日の3日間、静岡・三ヶ日青年の家を会場に「YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」を開催しました。

大会ではOP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級の計4クラスが開かれ、全国から集まった19団体・59名（艇）のジュニア・ユース世代のセーラーたちが、早春の浜名湖で日頃磨いた腕を競いました。



今大会は、OP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級の計4クラスを開催



今大会は59名のジュニア・ユース選手が参加



大会期間中には、講師を招いて勉強会を開催



第34回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

第37回全国児童 自然体験絵画コンテスト

全国の幼稚園・学校・団体から 応募総数5,580点

自然の中で発見・体験したことを表現する絵画コンテストです。自然体験の機会を創出するとともに、創作活動を通じて豊かな感性を育むことを目的に実施しています。本年度は全国の幼稚園・小学校・団体等から合わせて5,580の作品が寄せられ、入賞作品23点と入選作品330点を決定しました。審査員長の国広富之さん（俳優・画家）は、「AIの発達でPCで絵を描く機会が増えているが、情操感を養うには、体験したことを自分の手で表現することがとても大事。本コンテストは、自然の素晴らしさ、体験の楽しさ、絵を描く喜びを感じる機会となる」と講評しました。

なお、入賞作品は当財団ホームページで紹介するとともに、国立オリンピック記念青少年総合センターや、ジャパンインターナショナルポートショーの会場で多くの来場者の目を楽しませました。

- 特別協賛：ヤマハ発動機株式会社
- 協賛：マルマン株式会社、株式会社ワイズギア
- 後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリン事業協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会、NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会



大臣賞受賞者（4名）の表彰式を開催



スポーツ教材の提供

全国120の幼稚園・学校・団体にスポーツ教材を提供

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の幼稚園、小中学校、特別支援学校等を対象に展開している「スポーツ教材の提供」に、2025年度は316件の応募が寄せられました。5月23日には（公財）日本スポーツ協会の岩田史昭常務理事兼事務局長による厳正な抽選会を行い、当選した計120の幼稚園や学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。

教材の提供先には活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例については当財団ホームページで紹介するなど、社会啓発に努めています。



（公財）日本スポーツ協会の岩田史昭常務理事兼事務局長による抽選会

ユニバーサル・スポーツ体験会 チャレンジ！ユニ★スポ

静岡県内の小中学校11校で体験会を開催

「チャレンジ！ユニ★スポ」は、障害者スポーツとして生まれた競技を楽しむユニバーサル・スポーツの体験会です。障害の有無にかかわらず、子どもたちが身体を動かすきっかけとなる“スポーツを好きになってもらう体験機会”として、2025年度は静岡県内の小中学校11校で開催し、児童・生徒、教員合わせて542人が参加しました。



静岡県内の小中学校11校で体験授業を実施

調査研究

障害者スポーツ選手100人を調査 書籍を発刊し、シンポジウムを開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。



2019年から取り組んだ「障害者スポーツ選手のキャリア調査」、100人のインタビュー調査研究の総括として「障害者のスポーツキャリアを考える」（執筆責任者・藤田紀昭）を発刊



2026年3月20日、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで、公開シンポジウム「障害者のスポーツキャリアを考える」を開催。パラリンピアンを招いてのディスカッションも行われた